

# 生活に、楽しさ、うるおいを、かもしだす職場創り

社会福祉法人 池田博愛会（徳島県）

住 所	徳島県三好市池田町州津滝端 1 2 7 1 番地 7																											
TEL	Tel : 0883-72-3150 Fax : 0883-72-3158																											
URL	Toeh02@cicus.ocn.ne.jp																											
経 営 理 念	私たちは、人の尊厳に立ち地域を大切に、地域に愛され、地域に信頼される法人をめざします。																											
事 業 内 容 及 び 定 員	<table><tr><td>障害者支援施設</td><td>74 名 (1 か所)</td></tr><tr><td>障害福祉サービス事業</td><td>63 名 (4 か所)</td></tr><tr><td>障害福祉サービス事業 (グループホーム)</td><td>75 名 (16 か所)</td></tr><tr><td>障害児入所施設</td><td>40 名 (1 か所)</td></tr><tr><td>障害児通所支援</td><td>60 名 (2 か所)</td></tr><tr><td>特別養護老人ホーム</td><td>162 名 (2 か所)</td></tr><tr><td>軽費老人ホーム</td><td>29 名 (1 か所)</td></tr><tr><td>老人居宅介護等事業</td><td>(2 か所)</td></tr><tr><td>老人デイサービス事業</td><td>63 名 (3 か所)</td></tr><tr><td>老人介護支援センター</td><td>(1 か所)</td></tr><tr><td>小規模多機能型居宅介護事業</td><td>25 名 (1 か所)</td></tr><tr><td>一般相談支援事業</td><td>(1 か所)</td></tr><tr><td>特定相談支援事業</td><td>(1 か所)</td></tr></table>		障害者支援施設	74 名 (1 か所)	障害福祉サービス事業	63 名 (4 か所)	障害福祉サービス事業 (グループホーム)	75 名 (16 か所)	障害児入所施設	40 名 (1 か所)	障害児通所支援	60 名 (2 か所)	特別養護老人ホーム	162 名 (2 か所)	軽費老人ホーム	29 名 (1 か所)	老人居宅介護等事業	(2 か所)	老人デイサービス事業	63 名 (3 か所)	老人介護支援センター	(1 か所)	小規模多機能型居宅介護事業	25 名 (1 か所)	一般相談支援事業	(1 か所)	特定相談支援事業	(1 か所)
障害者支援施設	74 名 (1 か所)																											
障害福祉サービス事業	63 名 (4 か所)																											
障害福祉サービス事業 (グループホーム)	75 名 (16 か所)																											
障害児入所施設	40 名 (1 か所)																											
障害児通所支援	60 名 (2 か所)																											
特別養護老人ホーム	162 名 (2 か所)																											
軽費老人ホーム	29 名 (1 か所)																											
老人居宅介護等事業	(2 か所)																											
老人デイサービス事業	63 名 (3 か所)																											
老人介護支援センター	(1 か所)																											
小規模多機能型居宅介護事業	25 名 (1 か所)																											
一般相談支援事業	(1 か所)																											
特定相談支援事業	(1 か所)																											
収 入 (法人全体) 平成27年度決算	<table><tr><td>① 社会福祉事業</td><td>2,178,960,841 円</td></tr><tr><td>② 公益事業</td><td>— 円</td></tr><tr><td>③ 収益事業</td><td>— 円</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,178,960,841 円</td></tr></table>		① 社会福祉事業	2,178,960,841 円	② 公益事業	— 円	③ 収益事業	— 円	合計	2,178,960,841 円																		
① 社会福祉事業	2,178,960,841 円																											
② 公益事業	— 円																											
③ 収益事業	— 円																											
合計	2,178,960,841 円																											
職 員 数 (法人全体)	458 名																											
当 面 する 経 営 課 題	<ol style="list-style-type: none"><li>① 人口減少のまち 人材不足 ご利用者不足</li><li>② 法人改革にともなうあるべき姿の追及</li><li>③ 生涯活躍のまちに参加し地域の中核としての伝承事業に取り組む。地域包括システムの連携協働が現場の機能強化が不可欠。</li></ol>																											

取り組みに  
着手した  
理由、背景

- ① 現場の専門性、スマートな業務、楽しさ、喜びを考える。
  - ② 現場の空気がさわやかで風通しをよくする。
  - ③ 気づきが発生し業務改善提案の件数が増える。
- 

取り組みの  
現時点  
での効果

- ① 改善委員会の運営の開始
  - ② 業務改善提案制度の確立 H27年度件数：294件（グループ全体）  
上記内容による職員意識の向上がみられる。
-

# 生活に、 楽しさ、 うるおいを、 かもしだす職場創り

永楽荘

## 【はじめに】

生活に、楽しさ、うるおいを、かもしだす職場創りには、労働環境の改善を進める事が、最重要課題であるとの認識から、生活の愛用としてひとこま、ひとこまに向き合い、見直しの視点に立ち、作業を進めてきました。そのことで、現場の空気が変わる事を信じて、改善を進めました。

永楽荘

**【課題】**

**労働環境改善事例から見た作業効率の向上と負担軽減**

永楽荘

スローガン: 目を離さず、手を出さず、自立支援の観点より

**手を抜いて、楽に、  
提供するサービスは  
高品質なものを!**

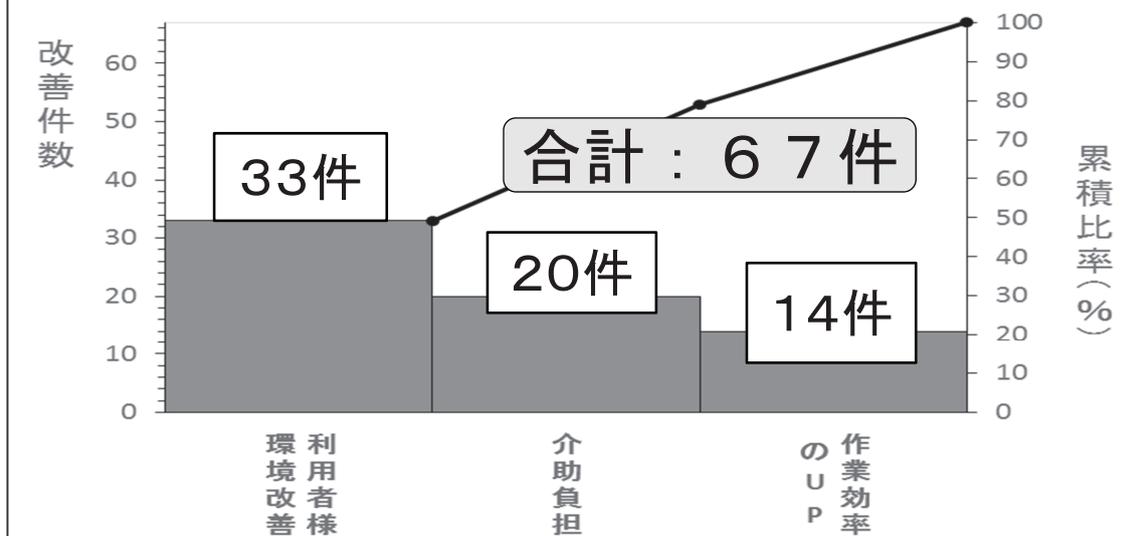
永楽荘

## 【目 標】

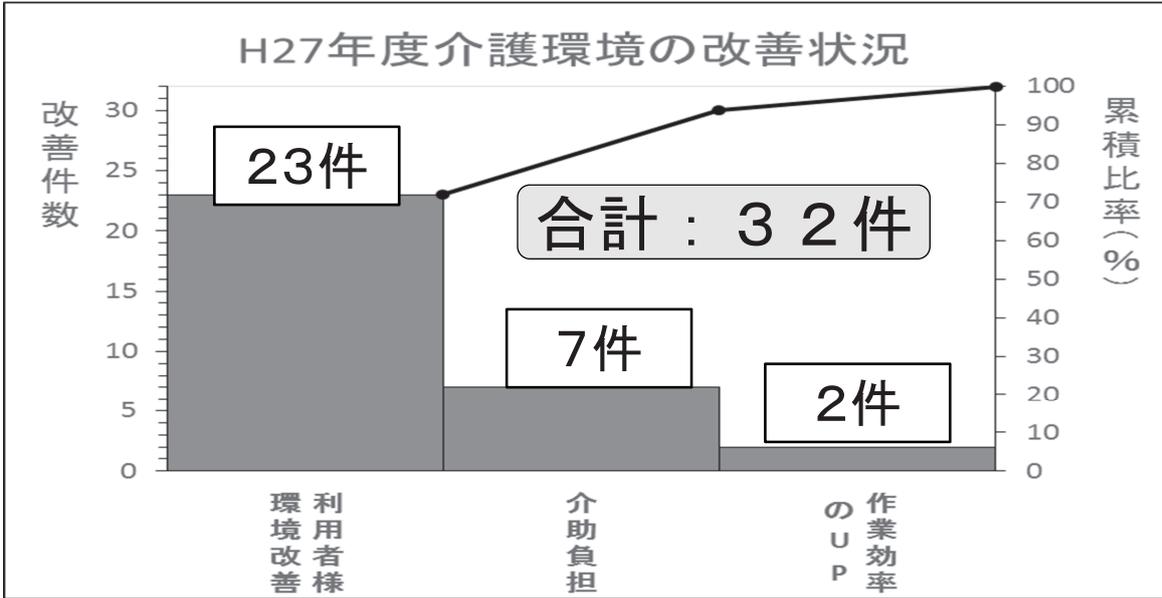
1. 介助負担の低減  
(1回でもしゃがんだり、中腰になったりする回数を減らそう)
2. 御利用者の環境改善  
(安定した生活を送っていただく。)
3. 作業効率のUP  
(オフラインでの作業効率を上げよう)

永楽荘

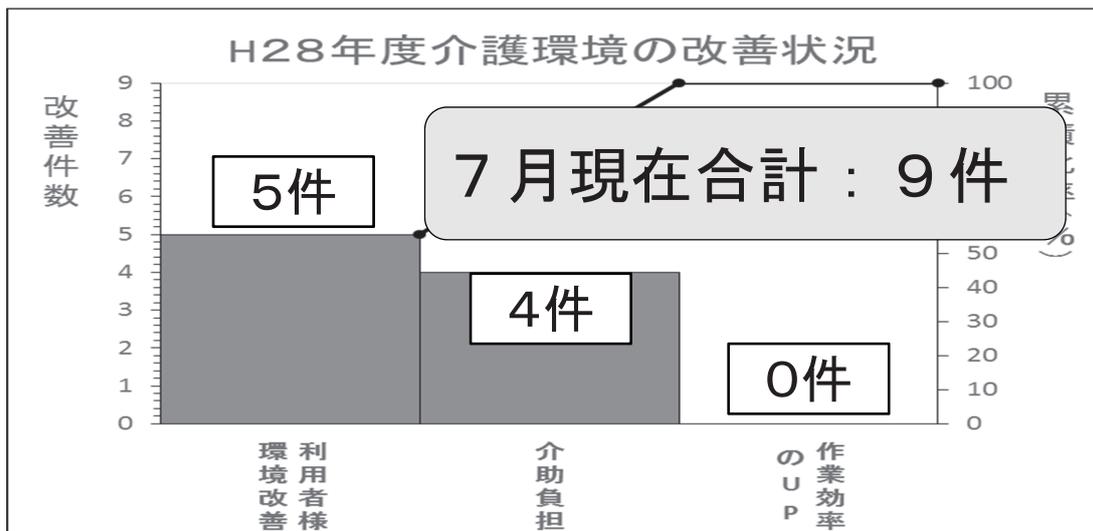
### H26年度介護環境の改善状況



永楽荘



永楽荘



合計件数が減少傾向にあるのは、改善の内容のクオリティが高くなってきているためです。

永楽荘

ささやかな観点に於いてスタートさせ、生活の中心となる座位に注目しました。

### 項目 椅子の座面延長

改善前



円背のある方で、クッションを使用し椅子に移乗されているが、ひざの位置が座面より前に出るため座位が安定しなかった。

改善後



座面を20cm延長し、椅子の転倒防止の為、足に20センチのガイドを取り付けた。

永楽荘

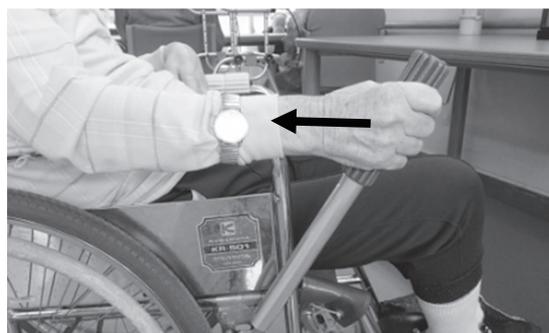
### 項目 車いすブレーキフックの延長

改善前



自走される方で、ブレーキを掛けるのに大きな力が必要でした。

改善後

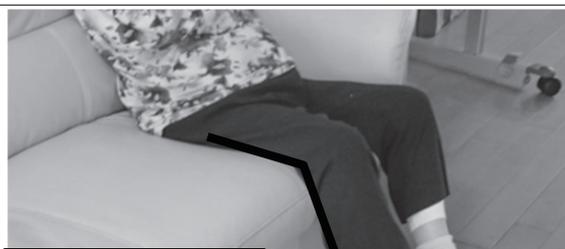


ブレーキフックを、延長する事で小さな力で、ブレーキを掛ける事が出来る。

永楽荘

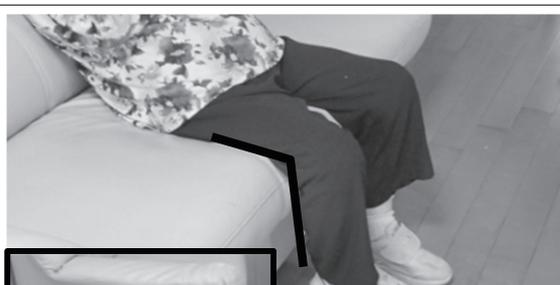
項目 ソファの高さ調整

改善前



移乗時は、職員が中腰になり抱きかかえる必要がありました。

改善後



高さを10cm高くし、ソファよりの立ち上がりを楽しめた。

永楽荘

項目 傾き抑制マット

改善前



姿勢に傾きが見られます。

改善後



抑制マットにより姿勢が保持できます。

永楽荘

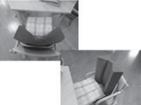
職員の立位での労働環境の改善として・・・

項目 疲労低減キッチンマット

改善前	改善後
<p>キッチンでの洗い物作業</p> 	 <p>低反発のフロアシートを導入し、疲労の低減を実施した。 縦450×横900×厚み15(mm)</p>

永楽荘

改善事例のまとめ

No	月	日	項目	イニシャル	アフター	内容	効果	ユニット
1	4	12	いすの背もたれクッション			円背のある方が、椅子に移乗された時背骨がクッションと接触し、擦傷の発生が懸念された。クッションのずれもあり、姿勢を直してもらっていた。	凹型のクッションを作成し、直接背骨が接触しないようにした。 ウレタン素材のクッションを用いることで、ずれもなく姿勢を保持できるようになった。	4南
2	4	14	ポータブルトイレの肘掛クッション材改良			ポータブルトイレの肘掛は、プラスチック製で硬度も高く、皮膚状態が悪くなると、打撲や、表皮剥離を生じしてしまう可能性があった。	肘掛部に、ウレタン製のクッション材を取り付けることにより、衝撃から利用者様を保護する。	5南、5北
3	4	5	異動バーの改善			移乗を自分で出来る方がおられ、	ウレタン製のラバーを巻き付けグリップ	5南
4	5	13	三角クッションの改良					

改善事例は、このようにデータベース化し、情報の共有化を図っています。

永楽荘

## 改善提案制度の構築

自部署あるいは、施設内に於いて改善を行った結果、現場の声として、報告書に展開しどのような効果が見られたのかという結果を、記録に残しているものです。  
27年度提出件数＝58件

業務改善提案書(1)			
提案日:	NO		
部署名	第5丁目	氏名	伊藤優子
提案事項	ペットクッションの見直し		
提案理由	<p>改善前: ベッド上で取られる方が多く、寝顔が大変な方でボヤージュアップした際生じ姿勢の維持が難しく、姿勢の修正も、いったんベッドを水平に戻し実施しなければならなかった。また、その姿勢の修正も頻りに行う必要があった。</p>		
改善内容・具体的手順	<p>ベッドをボヤージュアップしても、滑りが発生しないクッションを作成した。</p>		
			
期待できる効果	<p>ご利用者様の姿勢が安定し、食事にも食べて頂けるようになった。また、2分待つ事により、ご利用者様の背中に入替する事が、対向する事で済ませ、ご利用者様、職員への負担が軽減できる。</p>		
実施日または実施期間	平成28年 6月 13日	～	継続中
	理事	品質管理部長	品質管理責任者
			サービス管理室
実施した活動の検証と効果の検証	効果の検証日:	平成	年 月 日
<p>ベッドをボヤージュアップしたと並に、ご利用者様の姿勢が安定しており、ズレによるご利用者様の姿勢修正は0化出来た。改善を続けられる時も姿勢が安定している事から、表に食べてもらえている。により、職員への負担が大幅に軽減できたことがあった。</p>			
	理事	品質管理部長	品質管理責任者
			サービス管理室

永楽荘

## 改善活動の目的

改善・提案活動の主な目的は

- ①「人材育成」
- ②「職場活性化」
- ③「利益向上」の3つです。

目的を達成するための、良い改善をすすめるためには、専門知識を始め幅広い知識が必要になります。

永楽荘

## 1. 人材の育成

仕事や職場の問題点を見つけ、それをどのように改善したらよいのか、業務を正面から受け止め、向き合わなければなりません。

- ①業務知識が増えます。
- ②たえず問題意識を持つことになります。
- ③考える習慣がつきます。
- ④コスト意識を持つようになります。

永楽荘

## 2. 職場の活性化

改善活動を通して職場を活性化させることができます。

十年一日変化のない職場は、沈滞ムードが漂い活気がありません。

しかし、自分の業務をはじめ、職場の改善や5S改善など改善活動を行っている職場は、気づき、創造が生まれ、職場に共通の話題ができ、問題点を共有化することによって職場の人達の、コミュニケーションが深まり、職場の風通しがよくなります。

永楽荘

### 3. 利益の向上

改善活動を実施することによって、職員の意欲と向上心が高まり業務改善への喜び、感動が生まれ次のようなメリットが得られます。

- ①作業方法が改善されます。
- ②職場環境が良くなり能率が上がります。
- ③事務や作業能率が上がります。
- ④仕事の合理化や効率化が進みます。
- ⑤ムダが省かれ経費が下がります。
- ⑥技術やサービスが向上します。
- ⑦職場や作業が安全になり災害が減ります。
- ⑧サービスの品質が向上し、お客様に喜ばれます。

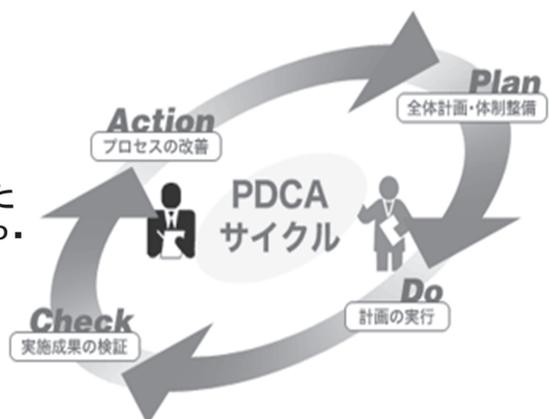
永楽荘

#### 改善委員会の立ち上げ

永楽荘での改善実施内容を、実践活動報告会にて報告を行った結果、法人としての位置づけをもらい、グループ全体への改善業務の展開として、改善委員会を立ち上げる事になりました。

・テーマ 連携協働(報告・連絡・相談)

・目的 各事業所での『問題及び改善したい項目』を、議題として3ヶ月間(P・D・C・Aサイクル)で改善に取り組み、結果を見えるようにする。



永楽荘

## 改善委員会では

施設ごとにテーマを選定し、P(計画)D(実行)C(検討)A(改善)の管理のサイクルに沿って、実施した結果を以下のフォームにまとめ記録を残す様にしました。

事業所名: 永楽荘

タ ー ン 数	問題及び改善項目	誤薬の〇化 12件→0件			
	期 間	平成28年 1月 ~ 平成28年 6月			
1	(P 計画) 対応策を作成する ・発生件数: 12件(12月までの実績) ①発生状況の層別を行う。 ②現状服薬手順の確認を行う。 ③発生要因を層別し、対応策を検討する。 ①~③: 1月度実施予定	(D 実行) 成果の把握をする ・服薬手順の見直しを実施→配布(12/22) ・服薬手順の再確認を行う様指示書の発行→(12/22) ・服薬確認の巡回実施	(C 検討) 結果の判断 ・服薬手順を、各ユニットに配布し事務机付近に掲示され、各職員が再度手順の確認を実施できた。 ・服薬実施後の確認を行っているが、服薬誤りを起こしてしまった職員には、危険予知予防について個別指導を実施した。 服薬確認1月度実績 ・朝食後→4回 ・昼食後→14回 いずれも誤薬なし。	(A 改善) 今後の取り組み ・うっかりミスによる要因が大きい事より、服薬後の確認を、朝食後の確認回数を増やし、意識の向上を計る。	
2	・職員の意識付けを重点的に実施する。	・服薬確認を、薬箱の中まで確認し、薬が残っていないかを確認。 ・残っている場合は、誰の薬か、どのような理由で残っているかを確認する。	・服薬実施状況を確認しているが、誤薬発生はない。	・服薬確認は継続して実施していく。 ・薬箱を使用し服薬を実施しているが、各ユニットによりオリジナル手順があり、状況を確認しておく。	

永楽荘

## 改善委員会では

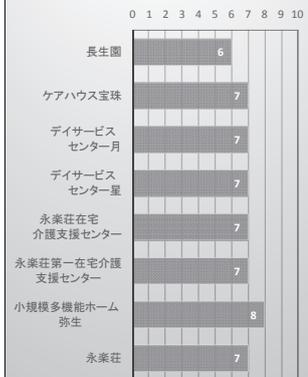
全施設の進捗は、次のようなフォームにまとめられ管理されています。

改善委員会取り組み状況

高齢事業部

No	事業所	問題及び改善項目	終了ターン数	備 考	
1	長生園	表皮剥離 8件から0件へ	6	湿度の上昇により、表皮剥離の危険率が上昇する為ご利用者のリストを作成し、個別に対応策をとり、さらに要箇の消毒を継続している。	継続
2	ケアハウス宝珠	配薬ミス 1件 → 0件	7	配薬用トレイの改良に取り組み、ご利用者の原簿に比例した配薬を実施。また、朝、昼、夜による3種類の色分けから、事前準備による作業工程の削減にもつながっている。7月より事務作業(帳票類の見直し)に取り組み配薬ミス: 0件	継続
3	デイサービスセンター月	不適切な支援または不適切な介護(表皮剥離)	7	入浴時使用のストレッチャーにおける、発生可能性部位の候補と、クッション材の見極めを実施している。浴槽での発生可能性箇所の見極めに展開する。	継続
4	デイサービスセンター星	御利用者の忘れ物ゼロ化	7	ご利用者の預かりものの保管形態、明示方法の改善を助める事により、忘れ物の〇化が出来ている。7月よりご利用者様が安全、安心してすごしていただける環境作りをテーマとして進捗する。	継続
5	永楽荘在宅介護支援センター	忘れ物をなくす 月2件→0件	7	忘れ物の観点より、ご利用者様へのサービス記録の記入誤り、忘れがあり関連資料の作成手順、方法の見直しに着手している。忘れ物: 0件	継続
6	永楽荘第一在宅介護支援センター	連絡・調整ミスをなくす (目標0件)	7	ご利用者様からの、担当者への連絡事項の伝達が曖昧な所があったが、伝達システムの見直しと、ルール化により確実に出来るようになっていく。	継続
7	小規模多機能ホーム弥生	誤薬、配薬ミスをゼロにする。(2件→0件)	8	ご利用者への服薬手順の統一が完了し、薬寮の管理方法の見直しに段階が移り、確りが定めて解りやすい管理方法への変更を検討している。	継続
8	永楽荘	誤薬の〇化	7	手順書までの落とし込みが完了、職員の意識が持続出来る様、事例発表委員会及び、巡回を実施する事で意識向上の継続をはかる。7月より表皮剥離のテーマに変更誤薬の発生: 0件	継続

### PDCAターン数



永楽荘

## 学んだこと

1. PDCAサークルを回し、小さな改善を積み上げることにより、大きな効果が得られること。
2. 現場よりの声がたくさん出始めたこと。
3. より良きサービスを提供できるようにと、考え続ける職員が増えたこと。

永楽荘

そして・・・

我々は、サービス業であることからどうしても人に頼らなければなりません。

再発しない対策が100%実施することは難しく、小さな改善を積み上げ、職員のやる気・やる腕を向上させ、かつ人(職員)の業務におけるスキルをいかに向上させていくか、知的財産を継続的に次の世代に伝えていくかという事が、大切であるという事を学びました。

永楽荘

## 【今後の課題】

永楽荘は、24時間稼働の施設であり、職員の連携が非常なウエイトを占めていることは言うまでもありません。

法人では、近未来計画を作成しています。そして、一つの区切りとして、日本経営品質賞受賞を目指しています。

改善活動を通じて、笑いがあり、感動があり、驚きがある、もっともっと楽しい世界であることを発信し、サービスがさらに向上し選ばれる施設になるよう、一層の取り組みを行っていきたいと思います。

永楽荘